

健康教育・ヘルスプロモーションの考えを取り入れた 学校における食育の評価

中西明美（女子栄養大学）

【はじめに】

学校における食育は、平成17年度に栄養教諭制度が始まったことや平成20年改定の学習指導要領に「学校における食育の推進」が明記されたことにより、その実施体制が整った。しかし、食育の評価については、必ずしも十分とはいえない現状がある。

そこで、日本健康教育学会栄養教育研究会は、平成25年度より「学校における食育の評価」をテーマとした活動を進めている。健康教育・ヘルスプロモーションの考え方を取り入れた学校における食育の評価の実施可能性を検証したうえで、実践のための『学校における食育の評価 実践ワークブック』を出版し、その評価方法の普及に努めてきた。本シンポジウムでは、栄養教育研究会が考える学校における食育の評価について報告する。

【学校における食育の進め方】

学校における食育は、計画、実施、評価、改善のPlan-Do-Check-Act（PDCA）サイクルで進めることで、その成果を見せることができる。計画は、アセスメント、目標設定、教育計画の作成に分けられる。評価では、計画で作成した目標に対応させた評価項目をたてることが重要となる。

【健康教育・ヘルスプロモーションの考えを取り入れた食育評価の考え方】

栄養教育研究会では、学校における食育の評価に、健康教育・ヘルスプロモーションの評価手法を取り入れた考え方を検討した。

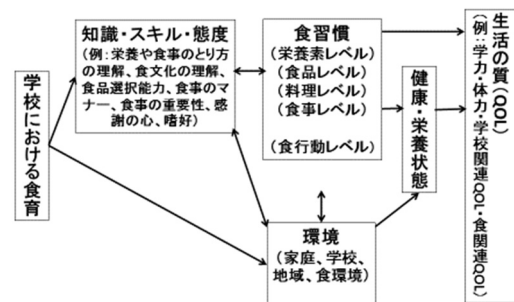


図 食習慣形成のモデル

日本健康教育学会栄養教育研究会編、学校における食育の評価 実践ワークブック ―評価を考えた食育計画の作成―、東京：健学社、2016

検討したモデルを図に示した。これは、プリシード・プロシードモデルをベースに食育の実施から知識、スキル、態度の育成、食習慣の形成、健康・栄養状態、生活の質の向上のプロセスを示した「子どもの食習慣形成のモデル」である。

この食習慣形成のモデルに沿って評価を考えると、「計画実施」（計画通り実施できるか）、「指導目標」（食育によって向上する知識・スキル・態度、子どもの周囲の環境を改善する）、「到達目標」（子どもの食習慣の改善、健康・栄養状態の改善やQOLの向上）のように、目標と評価を3段階に分けて考えることができる。

【実態把握の内容と方法】

栄養教育研究会では、この食習慣形成のモデルをもとに、学校における食育評価を進めていくためには、まず、実態把握方法の確立が重要と考えた。そこで、昨年度の栄養教育研究会の活動は学校現場で活用できそうな、児童生徒を対象とした「全国調査で用いられている調査項目」をまとめた。対象とした調査は、児童生徒の食事状況等実態調査【食生活実態調査編】，【食事状況調査編】（日本スポーツ振興センター），学校給食栄養報告（文部科学省）等、8

調査であった。収集された調査項目は184項目で、学校で活用可能な項目が多くあることがわかった。

さらに、文部科学省「平成28年度スーパー食育スクール事業」の実施校を事例に、実態把握の項目を検討した。全国調査と同じ項目や学校独自の項目、既存の尺度等が活用されていることがわかった。

【食育の評価で得られること】

学校における食育に健康教育・ヘルスプロモーションの評価の考え方を取り入れることにより、食育の成果を客観的に評価できるようになる。それにより、学内外の関係者から食育の意義を理解してもらうことができる。また、実施者にとっては、成果と課題が明確となり、課題解決に向けた取り組みを行うことができるようになる。

【学校における食育評価の今後の課題】

栄養教育研究会では、学校における食育評価を進めるために毎年公開学習会を実施している。その中で学校現場の食育関係者からは、「食育評価の重要性はわかるが、実際にどのように進めたらよいかわからない。」といった意見を多数聞いている。食育を実施するだけでなく、見える形で評価したいと考える学校現場の食育関係者は増えていると実感している。しかし、昨年度実施した公開学習会では、調査の実施や集計方法については、学校現場で難しい現状があることがわかった。そこで、栄養教育研究会では、こうした課題を踏まえ、今後も、全国の学校で食育の評価方法が確立し、実施した食育の効果を見える形で示していけるよう活動を進めていきたい。

【参考文献】

- ・福岡景奈，赤松利恵．学校における食育の評価はどうあるべきか．日本健康教育学会誌．2014；22：260-263．2)
- ・赤松利恵，稲山貴代，衛藤久美，他．望ましい食習慣の

形成を目指した学校における食育の評価．日本健康教育学会誌．2014；23：145-151．

・赤松利恵，稲山貴代，衛藤久美，他．望ましい食習慣の形成を評価する学校における食育の進め方．日本健康教育学会誌．2015；23：153-161．

・神戸美恵子，赤松利恵，稲山貴代，他．「学校における食育の評価」の実践に向けて，一平成27年度栄養教育研究会公開学習会の報告一．日本健康教育学会誌．2016；24：151-156．

・日本健康教育学会栄養教育研究会編．学校における食育の評価 実践ワークブック ―評価を考えた食育計画の作成―．東京：健学社；2016．

・中西明美，赤松利恵，稲山貴代，他．「学校における食育の評価」の実践に向けて 第2報 ―平成28年度栄養教育研究会公開学習会の報告一．日本健康教育学会誌．2017；25：135-140．

・坂本達昭，中西明美，會退友美，他．学校における食育で健康教育・ヘルスプロモーションの評価の考え方を取り入れるには？―第26回日本健康教育学会学術大会における公開学習会の報告一．日本健康教育学会誌．2017；25：223-227．

【略歴】

平成3年 県立広島女子大学家政学部卒業

平成3年 広島市学校栄養職員（14年間）

平成24年 女子栄養大学 博士課程修了

平成24年 女子栄養大学 専任講師

平成30年 同 准教授

(E-mail ; nakanisi@eiyo.ac.jp)